

## 4 防災教育の展開（実践例）

# はま・なか・あいづ 実践協力校

福島市立  
清明小学校  
児童数175人

2つの川に挟まれ、水害時に他の小学校に避難する学校



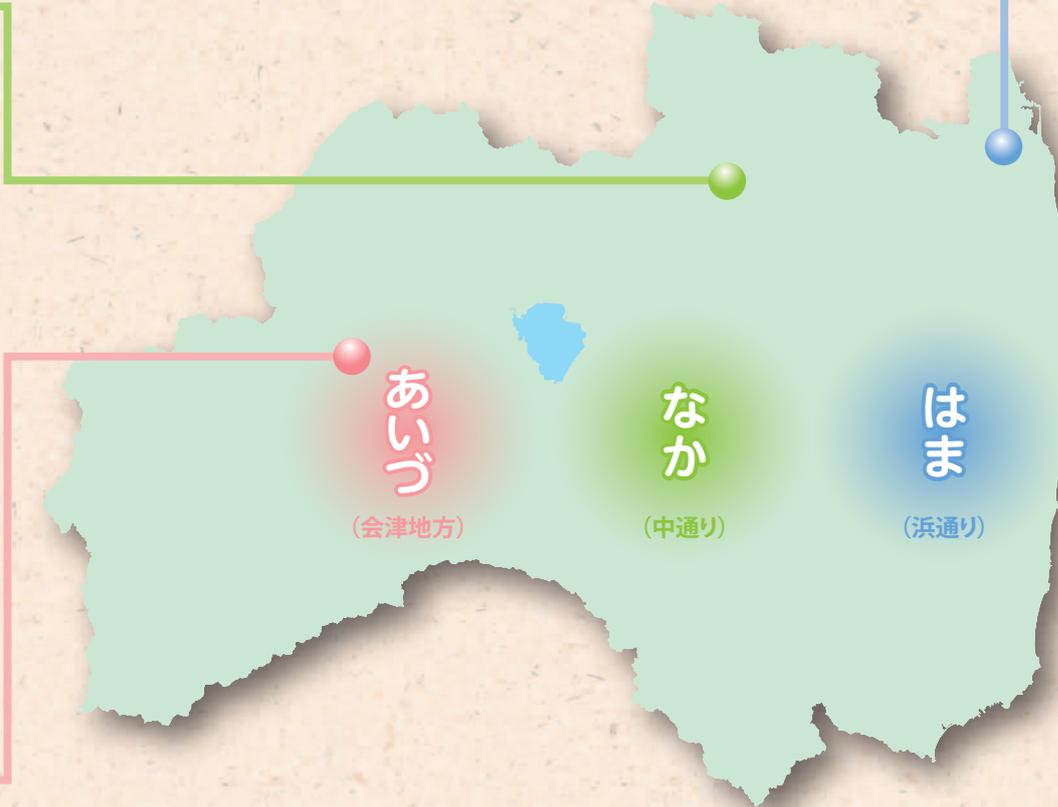
柳津町立  
西山小学校  
西山中学校  
児童数 小29人 中16人

山に囲まれ土砂災害警戒区域内にある学校



相馬市立  
**飯豊小学校**  
 児童数203人

津波ハザードマップによる津波浸水地域が100数十メートル近くにある学校



※各学校の児童数は平成26年5月1日現在

II

福島県の学校防災の新たな展開

# 相馬市立飯豊小学校

## 研究テーマ

## 大切な命を守るための防災教育

### はじめに

本校は太平洋からわずか3km、標高6m足らずに位置し、東日本大震災による津波被害は学区内の岩子・新田・柏崎の3地区に及んだ。津波は学校の50m付近までおしよせたものの、幸い本校児童全員の生命は確保することができた。また、体育館は約4ヶ月間避難所として機能することとなった。このような状況から、不測の事態発生時における児童の安全確保やその後の対応は大きな課題である。



### 1 ねらい

災害や防災についての正しい知識を身に付け、災害の状況に応じ的確に判断し、安全を確保するための行動ができたり、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立ったりすることができるようにする。

### 2 学校課題

- 災害に対しての危険予測や回避能力が十分に育っていないため地域の自然環境、災害や防災についての日常的な学習・活動が必要である。
- 危機管理マニュアルや学校防災体制の実践的な見直しが必要である。
- 防災の観点から学校・家庭・地域・関係機関とのより密接な連携が必要である。



### 3 実践概要

- (1) 防災教育年間プランの作成
- (2) **実践1** 「防災教室 in 飯豊」(5・6年生 総合的な学習の時間で実施)  
10月21日(火) 関係機関との連携した学習・実技研修
- (3) **実践2** 避難訓練(幼・小合同)～想定と時間を変えて～  
避難経路、避難時の集合時の場所・避難方法を幼・小合同で確認
  - ① 4月25日(金) 大地震から津波発生を想定した訓練(授業時) 保護者引き渡し訓練
  - ② 11月7日(金) 下校時、大地震を想定した訓練(下校時)
  - ③ 12月19日(金) 大地震から火災発生を想定した予告なし訓練(業間時)
  - ④ 2月16日(月) 火災発生を想定した予告なし訓練(清掃時)
- (4) **実践3** 校内・地域防災マップ作成
  - 6月 校内の危険箇所点検・安全マップ作成
  - 7月～11月 地域の危険箇所や安全な施設の確認・防災マップの作成
- (5) 地域防災活動への参加と防災学習の地域への発信
  - 9月15日(月) 岩子地区防災訓練に6年生代表児童参加
  - 11月15日(土) 校内学習発表会で5・6年生が発表
  - 11月21日(金) 市教委主催「ふるさと相馬子ども復興会議」で6年生が発表
- (6) 授業実践
  - 10月～11月 防災頭きんづくり(6年 家庭科)



防災訓練に参加



防災頭きんを身につけ復興会議で発表

## 4 実践

### 実践1 「防災教室in飯豊」(5・6年生 総合的な学習の時間で実施)

◇ 日本赤十字社福島支部による「防災教室」を本校体育館で開催し、福島地方気象台や日本赤十字社福島支部職員による講義や実技指導を5・6年生が受けた。

#### 1 ねらい

甚大な被害をもたらす災害等を理解し、防災の知識を学び、自分の命を守るだけでなく、他の人の命にも気配りができるように、災害時に役立つ知識や技術を学ぶ。

#### 2 内容

- (1) 自然災害の発生原因や防災について  
講演：「防災の知識 いのちを守るために」
- (2) いざという時に備えての実技講習
  - ①災害時の炊き出し(非常食体験)
  - ②災害時の救急法(AED・傷病者の搬送・傷の手当て)

#### 3 支援団体

- ・日本赤十字社福島支部
- ・相馬市日本赤十字奉仕団
- ・青少年赤十字賛助奉仕団
- ・福島地方気象台

#### 4 日程

平成26年10月21日(火)

- ①9:30～10:20  
・開会式、非常食体験
- ②10:30～11:50  
・防災学習〈防災の知識  
いのちを守るために〉
- ③12:00～12:50  
・炊き出しの試食・給食
- ④13:00～15:00  
・救命救急法等の研修、閉会式



#### 非常食体験

災害救助用炊飯袋に、1合の米と水を入れ大釜でゆでる。炊きあがったご飯を給食の時に試食する。地元の日赤奉仕団やJRC賛助奉仕団の方々11名の支援があり、スムーズに調理・体験ができた。

#### 防災学習〈防災の知識 いのちを守るために〉



福島地方気象台の  
防災管理官からの講演



#### ペットボトルを使った 雲の発生実験

自然災害の発生の仕組みや、気象情報の意味や天気図の見方、災害を防いだり減災するための方法などを学んだ。

#### 災害時の救急法体験 (AEDの使い方・傷病者の搬送の仕方)



心臓マッサージと人工呼吸の訓練の様子



三角きんを使った手当て



毛布を利用した搬送



ジャージを使った担架



## 実践2 避難訓練（幼・小合同）～想定と時間を変えて～

●参加者 幼稚園児31名、小学校児童203名、教職員

### 1 避難訓練の強調ポイント

より速く より遠く より実践的に!

### 2 今回の改善のポイント（前年度の反省をふまえて）

- (1) 複数の避難ルートを確認する。
- (2) 先発隊を送り、より安全な避難ルートを確認する。（自転車を活用する。）
- (3) 適切な情報を素早く伝達する。



### 3 本校の避難経路



#### 第1避難経路

二次避難場所への距離が短い。  
ただし、住宅が多く、ブロック塀や家屋の倒壊の恐れがある。

#### 第2避難経路

二次避難場所までの距離が遠い。  
ただし、家屋の倒壊等の被害にあうことはない。

→海まで距離にして2kmを想定している。

### 4 避難訓練の実際

- (1) 下校時 避難訓練（より速く より実践的に）

避難指示

→ 一次避難(校庭)

→ 方部ごと(7方部)に一斉下校



玄関から校庭へ

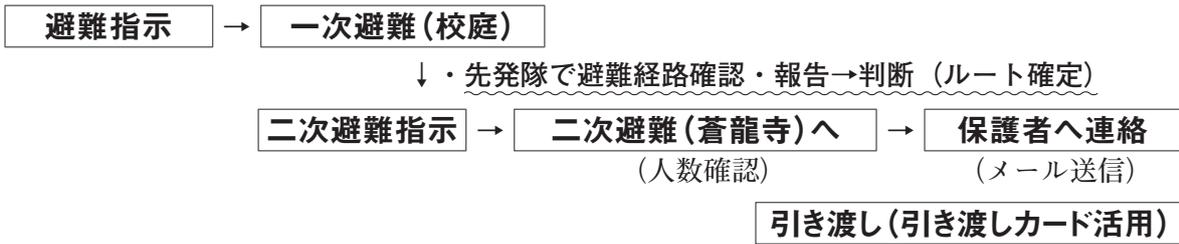


校庭に避難



方部ごとに避難（下校）

(2) 二次避難 (より遠く)



一次避難(校庭)

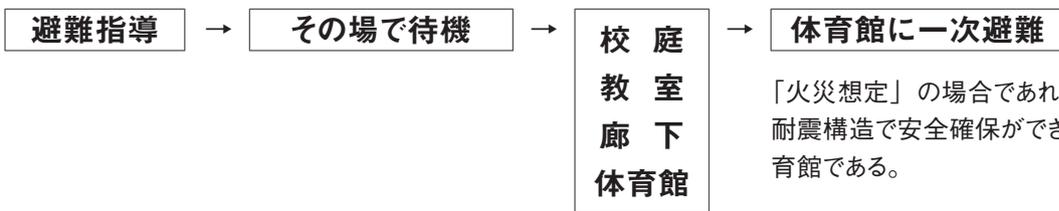


校長を先頭に二次避難



二次避難場所待機

(3) 予告なしで、休み時間に避難訓練 (より実践的に！)



階段下で待機中



校庭で待機中



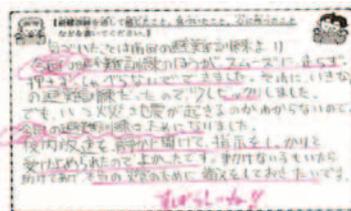
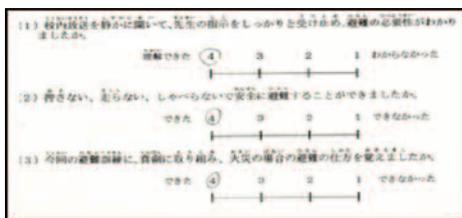
防災頭さんで避難中



幼稚園児も避難中

5 資料

(1) 振り返りカード



〈成果〉

子ども自身が前回の訓練と比較し、自分から改善しようとする態度が育ってきた。

(2) 保護者引き渡しカード

緊急時の児童引き渡しカードの記入例及び注意事項  
相馬市立飯豊小学校

方 部	程 度						
所 属	児童氏名	在学中のきょうだい①		在学中のきょうだい②		在学中のきょうだい③	
		名 前	所 属	名 前	所 属	名 前	所 属
5年2組	飯 豊子	豊太	3年2組	豊次郎	1年3組		年 組
保護者氏名		住 所		電 話			
飯 太郎		相馬市大曲字天神前4-2		0244-35-3209			
緊急連絡先の名称・所在地 (携帯電話の場合は通常の所持者名)		緊急連絡電話					
飯 みずほ		050-0000-1111					
順	引き取り者氏名	関係	住所	電話	チェック		
1	飯 太郎	父	同上	同上			
2	飯 みずほ	母	同上	同上			学校記入欄
3	飯 ちいほ	祖母	相馬市大曲字天神前4-2-1	99-1001			
4							
5							

※児童氏名には一審年長のお子さんの氏名をお書き下さい。

〈成果と課題〉

毎年4月に保護者に【配付・確認】して、常に携帯してもらっている。

サイズが大きすぎて携帯するには不便との声を反映し、サイズをA5から、免許証サイズに変更することにした。今後も、適宜、より使いやすいように変更していく。

## 実践3 校内・地域防災マップ作成

### 1 ねらい

地域には安全な場所や施設だけでなく、たくさんの危険箇所がある。また、家から学校や避難所までの道には、電柱やブロック塀、家屋などもたくさんある。防災マップ作りを通して、その様子が地域により異なることを理解させ、いろいろな場面を想定できるようにする。また、地域のタウンウォッチングや家庭での避難経路についての話し合い等を行うことで、地域の防災対策の確認及び防災意識の高揚を図る。

### 2 防災マップの作成手順と配慮点

(1) 防災マップの作り方を知る。【P 66～71 参考】



●参考作品をもとにしながら、「災害」の話と防災マップを作成するねらいと活用のしかたなどについて必要性を意識しながら作成手順について説明している。

※防災マップづくりの支援協力団体  
一般社団法人 日本損害保険協会 (E-mail:ansui@sonnpo.or.jp)

(2) タウンウォッチングへ出かける。(探検Ⅰ)

(子どもたちの視点で、夏休みを利用して探検する。)

※留意点

- ・探検ポイントの事前確認と安全指導（交通事故防止）を行う。
- ・住宅地図を利用して、気づいたことを子どもたち自身が書き込む。



(3) タウンウォッチングへ出かける。(探検Ⅱ)

(地域の方などと探検に行き、新たな気づきを見つける。)



安全ボランティアの方々の協力で探検

(4) 防災マップの下書きをする。※「気づき」や「提案」を地図に書き込む



(5) 防災マップを見直す。

下書きの地図をもとに話し合いを行い、よりよいマップ作りを意識して再構成を図る。

※材料の工夫

発砲スチロール・スポンジ・シール・色紙・写真

※立体的な表し方の工夫

爪楊枝・段ボール



話し合いの光景



立体的に工夫して

(6) 防災マップを完成させる。



岩子防災訓練に参加した様子・インタビュー

○シールをつけ、「にげる看板」を作ってほしいとの要望

まとめとして  
 ・防災時の備えが分かった  
 ・地域の人々を知ること、絆を深めることが大切  
 ・自分でできることをやり、伝えていくこと



消防団の人に聞きました

環境をきれいに!

家が密集、道せまいきけん

地域の人へのインタビュー内容  
 「火事にならないようにしている工夫は何ですか?」

(7) 防災マップの活用を図る。

※校内に掲示及び写真印刷して各家庭に配付して活用を図り、各家庭での避難経路の確認に役立つ。

参考：P.68・69「防災家族会議」を開こう P.110・111「防災個人カード」(県教委)活用

## 5 平成26年度 飯豊小学校防災教育年間プラン

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
方針	大切な命を守るために (安全で安心な学校)					
重点	学校単位 学級・学年 安全部 子どもが安心できる学校づくり 学級づくり → 集団での活動 → 安全・防災計画 → 防災教育 →					
活動の視点	新しい学年での出発・交流活動の充実 地域と一緒に防災訓練 → 安心できる避難場所 安心をつくりだす訓練 					
防災学習	避難訓練・交通教室 (防災行動を学ぶ) 					
防災訓練	■避難訓練① (津波想定) 第1・2避難場所の確認 ■不審者対応訓練② (不審者想定) 着衣水泳 					
こころの学習	①事前指導 花いっぱい運動 (春) ・見通しを持たせる → ②振り返り 振り返りカードの活用  ③学年別学習 ・友だちとのかかわり ・こころのしくみ ・ストレスについて					
サポートプラン	日常観察 交流 SSTの年間指導 QUアンケート・集計 個別面談① 観察 面談 → 					
活動	行事 児童会 学級・学年 運動会 1年生を迎える会児童会行事① → 学級びらき (各学年・クラスのお楽しみ会など) 					
公民館 民生員 PTA	①会議 ・顔合わせ・方針確認 ・「救Qの家」の計画 懇談会・学校だより ②会議 PTA危険箇所点検 「救Qの家」の組織作り → 懇談会・学校だより 					
学校組織	・学校防火防災計画作成 ・学校防火診断 ・避難訓練 (消防署の協力) → ・不審者対応訓練 (警察署の協力) 					

## 6 成果と課題

### 〈成果〉

- 防災学習を通して「思いやりや優しさ・命の大切さ」が育まれ、子どもたちの防災意識が高まってきている。学んだことをまとめて発表するという活動を通して「コミュニケーション力や想像力」が育まれるとともに、より実践的・具体的に地域の防災・復興について考え、新たな提案を防災マップの形にしたり学校行事で発表したりすることができたことは大きな成果である。
- 地域・関係機関との連携した具体的な実践を通し、地域全体としての防災や減災についての意識や日常的に危機意識を持つことの重要性についての理解が深まった。

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月
方針		大切な命を守るために (安全で安心な学校)					
重点	学校単位 学級・学年 安全部	子どもが安心できる学校づくり 学級づくり 集団での活動					
	活動の視点	安心を深める学習 (セルフケア・防災知識・メカニズム・つながり)					
防災学習		自然災害学習・災害対応学習↓ (防災教室の実施)					
防災訓練		■避難訓練③ (地震・火災想定) 日時を伝えず実施 (休み時間)			■避難訓練④ (火災想定) 日時を伝えず実施 (清掃時間)		
こころの学習		④支援プログラムの活用 夢先生→ 花いっぱい運動 (秋)					
サポートプラン		◇ハートフルタイム (心・思いの表現活動)→ 音楽・絵画・読み聞かせ 個別面談② (児童) 個別面談③ (保護者) 観察 面談					
活動	行事 児童会 学級・学年	学習発表会→ 児童会行事②				東日本大震災追悼集会 (3.11) 6年生を送る会 各クラスの分散会など	
	公民館 民生員 PTA			③会議 「救Qの家」の組織完成 懇談会・学校だより			
学校組織		・次年度の学校防災計画作成 ・学校防火診断 ・避難訓練 (消防署の協力)					

〈作成のポイント〉

- 安全教育全体計画をもとに、被災地特有の課題として「心のケア」対策を盛り込み、「防災教育」の年間計画を先進地視察校 (陸前高田市立小友小学校) をモデルにして作成した。
- 防災教育に係る活動を、月ごと・内容ごとに年表形式にまとめることにより、活動内容の関連 (つながり) を明確に意識して指導できるようにした。

〈課題〉

- 体験的な学習の実践と指導方法のより一層の工夫が必要である。防災学習は知識・理解及び受動的な学習では身に付いていかないものである。体験的な活動など主体的な学びを通して子どもたちに危険予測や危険回避能力などを培うことが大切である。
- 防災教育の指導時間を確保するとともに、学習指導要領の趣旨を踏まえ、他教科や領域との関連性を考慮して指導する必要がある。

## 福島市立清明小学校

### 研究テーマ

### 水害の経験を生かした「地域と連携した防災学習」

## 1 ねらい

自分の住む地域の地理的な特徴や過去の水害の歴史等を理解し、児童一人一人が危機意識を高め、自ら命を守ることができるようにする。

## 2 学校課題

- 阿武隈川と荒川に挟まれ、周囲よりも低い土地にあり、常に水害の危険性がある。
- 清明地区は本来地域の結び付きが強い福島城下の寺町であるが、近年は地域との関わりが少ない家庭も増えてきている。



荒川の水害対策について話を聞く

## 3 実践概要

### 1 学校行事等における防災学習

- (1)〔6月10日(火)〕校内防災学習推進チーム組織編成(校内防災委員会)
  - ・校内防災学習推進チームにおける役割等の確認
  - ・指導の重点と研究計画の作成・確認
- (2)〔6月13日(金)〕授業参観・懇談会・全体会における保護者への説明
- (3) **実践1**〔9月2日(火)〕防災訓練「防災給食を食べよう」
- (4) **実践2**〔9月10日(水)〕全校登山「ふるさと福島を知ろう」(吾妻山・鎌沼一周コース)
- (5) **実践3**〔12月5日(金)〕保護者への啓発活動「『防災家族会議』を開こう」
- (6)〔2月中旬〕研究のまとめ

### 2 教科等における防災学習

- (1) **実践4**〔7月9日(水)〕「水害から命を守ろう」
  - ・学級活動(2)
  - ・対象:全校児童
  - ・協力者:国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所より2名
- (2) **実践5**〔10月15日(水)〕「防災マップをつくろう」
  - ・学級活動(2)
  - ・対象:3~6年の児童
  - ・協力者:町内会長等(各町内会の代表)

### 3 **実践6** 教員研修(視察や研修会への参加、校内研修会等)

- (1)〔8月8日(金)〕先進校・先進地視察
- (2)〔8月22日(金)〕伝達講習

## 4 実践

### 実践1 ▶〔9月2日(火)〕防災訓練「防災給食を食べよう」

- 9月1日の「防災の日」に合わせ、避難訓練を実施した。避難所での生活を想定し、非常食のレトルトカレーを食べる等の活動を取り入れた。
- 縦割りの異年齢集団で活動し、6年生を中心に協力し、助け合いながら活動できた。
- これまでの避難するだけの訓練から一歩先に進んで、地域の安全や他者のために役立つ「社会貢献」への意識付けにつながった。



6年生が配膳の世話をする



縦割り班でカレーを食べる

### 実践2 ▶〔9月10日(水)〕全校登山「ふるさと福島を知ろう」(吾妻山・鎌沼)

- 推進のための体制を整える。
  - ・6月20日(金) 原案検討(職員会議)
  - ・7月11日(金) 細案検討(職員会議)
  - ・7月14日(月) 保護者ボランティアの募集
  - ・8月29日(金) 保護者ボランティアへの協力内容の説明
  - ・9月10日(水) 全校登山実施
- 荒川の源流である吾妻連峰の一つ、吾妻山を登山することで、ふるさと福島の地形を具体的に理解するとともに、ふるさとに対する誇りと愛情を育むことをねらいとする。
- 1年生から6年生までの縦割り班で助け合いながら、全児童が歩き、登り切ることができた。児童一人一人が達成感を味わい、友だちの大切さを実感した。
- 8名の保護者ボランティアの協力があった。今後も保護者や地域住民の学習活動への参加を積極的に進め、防災学習に対する理解を深めていく必要がある。



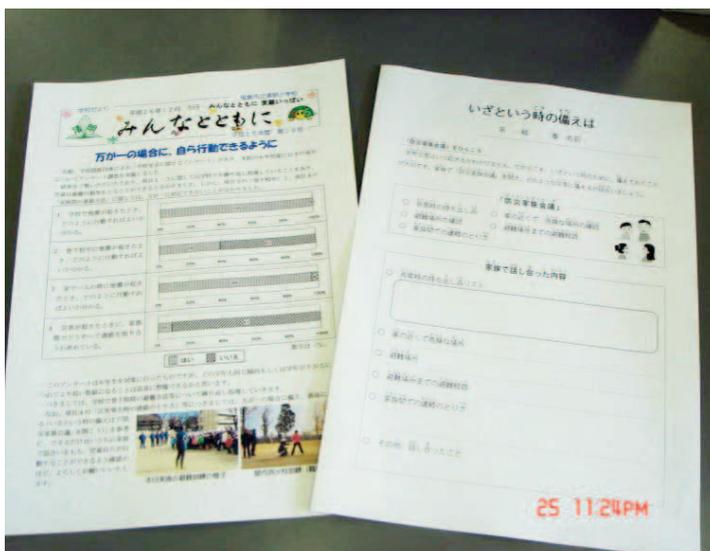
全校児童が鎌沼を一周する



縦割り班で協力して歩く

### 実践3 ▶ (12月5日(金)) 保護者への啓発活動『防災家族会議』を開こう

○災害に備え、非常時の持ち出し品リストや避難場所、家族での連絡の取り方について各家庭で話し合うよう学校便りで依頼した。



学校便りで防災意識を高める

とき せな  
**いざという時の備えは**

年 組 番 名 前: \_\_\_\_\_

『防災家族会議』をひろこう  
自然災害はいつ起きるかわかりません。だからこそ、いざという時のために、備えておくことが大切です。家族で『防災家族会議』を開き、どのような災害に備えるか話し合きましょう。

ぼうさいいざいざかいぎ  
『防災家族会議』

○ 非常時の持ち出し品  
○ 家の近くで、危険な場所の確認  
○ 避難場所の確認  
○ 避難場所までの避難経路  
○ 家族間での連絡のとり方

家族で話し合った内容

○ 非常時の持ち出し品リスト

○ 家の近くで危険な場所

○ 避難場所

○ 避難場所までの避難経路

○ 家族間での連絡のとり方

○ その他、話し合ったこと

『防災家族会議』ワークシート

### 実践4 ▶ 教科等における防災学習① (7月9日(水)) 水害から命を守ろう

- (1) 教科等名 特別活動 学級活動
- (2) ねらい 【水害から命を守ろう】

- 清明地区は大きな河川に囲まれた低地であり、常に水害の危険があることを理解する。
- 阿武隈川や荒川の氾濫の歴史や水害の被害状況を知るとともに、水害から命や生活を守るための工夫や河川改修工事について知る。
- 水害に対する危機意識を高め、水害から命を守る工夫と努力をしようとする意欲を高める。

- (3) 日時 7月9日(水) 9:15~12:15
- (4) 参加学年 1~6年(2校時1・2年、3校時3・4年、4校時5・6年)



水害の様子を動画で見る



清明地区を空から見ると

(5) 外部の指導者・協力者

国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所 計画課課長・企画係長

(6) 展開

学習活動・内容 ◇主な発問等	教師の支援等	外部講師、資料等
<p><b>1 自分たちの住む清明地区の地形の特徴について知っていること、気付いていることを発表する。</b> ◇みなさんの住んでる清明地区には、どんな特徴がありますか。</p>	<p>○阿武隈川と荒川に焦点をあてていく。</p> <p>○地形や自然環境に焦点をあてるようにする。</p> <p>○荒川と阿武隈川、吾妻連峰があることに気付かせる。</p>	<p>・国土交通省職員</p> <p>・荒川は急流であること、そして阿武隈川にはたくさんの支流があることにも気付かせるようにする。</p>
<p><b>2 阿武隈川、荒川の氾濫の歴史と被害の様子について具体的に理解する。</b> ◇荒川や阿武隈川は氾濫したことがあります。そのときのことを聞いたことはありますか。</p>	<p>○福島第一中学校の水害の記録碑を想起させる。</p>	<p>・数分で増水し、氾濫してしまったことがあることも知らせる。</p>
<p><b>3 河川改修と排水機場の設置等、災害から命を守るための人々の苦勞と努力について具体的に理解する。</b> ◇最近荒川の氾濫はなくなりました。どうして氾濫しなくなったのでしょうか。</p>	<p>○課題意識を高め、地域の様子を想起させる。</p>	<p>・写真資料</p> <p>・映像資料</p>
<p><b>4 河川改修等の水害対策の工事について知る。</b></p>		
<p><b>5 わたしたちにできること、やらなければならないことについて話し合う。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>水害から自分の命を守るためには、どんなことに気を付け、どのような行動をとればよいのだろう。</p> </div>		
<p><b>6 水害から命を守るために気を付けなければならないことや自分にできることをワークシートに書く。</b></p>	<p>○まずは自分たちの住む地域をよく知ることが大切であることを確認する。</p> <p>○一人一人が判断を迫られることもあることに気付かせる。</p>	<p>・児童一人一人の自己決定の場を大事にするよう配慮する。</p>

(7) 児童の感想

○川の水が2分くらいで、すごく増えることがわかりました。もしも、こう水がきたら、こわいなと思いました。雨が降りそうなときに、川に行かないようにすることなどを考えました。

(2年 女子児童)

○本当にあのようなことがあったら、こわいから(家族で)話し合っておいた方がいいということがわかりました。本当にこわいなと思いました。

(2年 男子児童)

○今日、6年生と一緒に、洪水のことについて学習しました。洪水とは何かを教えてもらったり、いざ増水したらどこへ逃げればいいのか、そのときの服装や持ち物などについて、いろいろ学んだりしました。もしもの時に備えて、日頃から家族と避難場所やルートを話し合った方がいいと教えてもらいました。さらに、実際の洪水はどうやって起きるのか、そのとき周りの様子はどう変わるのかなど映像も見せてもらいました。短い時間で川の水は増水するとわかり、とてもおどろいてしまいました。災害はいつ起こるかわからないので、今回の学習をもとに、川で遊ぶときには特に注意したいと思いました。

(5年 女子児童)

(8) 成果と課題

○清明地区の過去の水害の様子を映像資料等で具体的に理解することができ、児童一人一人が危機意識を高めることができた。

○信夫橋を渡って登校する児童は、水害が発生すると学校に来ることができなくなり、学校から自宅に帰ることもできなくなることを理解した。家族で、あるいは自分一人で避難して自分の命を守らなければならないこともあることを実感をもって理解することができた。

●国土交通省の専門家の方のお話だけに、子どもたちは普段にも増して真剣に話を聴いていた。今後も校内研修の充実を図るとともに外部講師の効果的な活用を含め、地域の協力を得るなど、多様な関わりの中で学習を進めていきたい。

**実践5** 教科等における防災学習②〔10月15日(水)〕防災マップをつくろう

(1) 教科等名 特別活動 学級活動

(2) ねらい 【防災マップをつくろう】

地域の防災マップ作成を通して、地域の様子や避難場所を具体的に理解し、児童が学校以外の自宅や地域にあって、水害の危険が高まった場合に、自ら危険を回避できるようにする。

(3) 日時 10月15日(水) 10:10~12:15

(4) 外部の指導者・協力者 町内会長ほか

(5) 参加学年 3年、4年、5年、6年児童、各町内会代表

(6) 推進のための体制づくり

月 日	内 容	参加者	場所
9月19日(金)	職員会議 ○実施案検討	全教職員	職員室
9月30日(火) 18:00~	学習支援ボランティアへの説明会 ○町内会長等と学習内容等を確認	町内会長等 教務主任	会議室

10月6日(月)	学級での事前指導 ○ハザードマップの使い方 ○フィールドワークの留意点 ○防災マップの作り方	担任 教務主任	各教室
10月14日(火)	事前最終確認会	担当者	校長室

(7) 展開

時 間	活動内容等 ◇主な発問等	担当者・地域の方	場所
10:10～ 10:25	<b>1 全体会</b> ○校長先生のお話 ○町内会のみなさんの紹介 ○学習内容の確認と注意事項	・教務主任 ・町内会のみなさん ・安全教育担当	体育館
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         水害の危険があるときに、みなさんの地域ではどこが危険ですか。水害が発生したら、みなさんはどこに避難しますか。地域のみなさんに教えていただきながら自分自身で確認しましょう。                     </div>			
10:30～ 11:20	<b>2 各地域ごとのフィールドワーク</b> ◇よく増水するところ、水が噴出するマンホールはないか。 ◇避難所はどこだろう。どこを通過して避難すれば安全なのだろう。	各町内会のみなさん ・地区担当教師	各町内
11:30～ 11:50	<b>3 安全マップの作成</b> ○危険箇所や注意事項を白地図に記入する。 ○避難所と避難経路を白地図に記入する。 ◇色分けしたり、付せん紙を使ったりして、わかりやすく表現するよう指導する。	各町内会のみなさん ・地区担当教師	体育館
11:50～ 12:00	<b>4 全体会</b> ○各班の発表(地区ごと) ○感想発表 ○校長先生のお話 ○町内会長代表の方からのお話 矢剣町会長 様 ○お礼の言葉(6年児童)	・教務主任 ・安全担当 ・校長 ・町内会長	体育館
12:05～ 12:15	○各学級に戻り、気が付いたことや自分で危険を回避するための方法をワークシートにまとめる。 ◇家庭で話し合うよう指導する。	・担任	各教室

### (8) 児童の感想

○今日、町内会長さんたちと一緒に、僕の住む柳町・御倉町のフィールドワークをしました。柳町や御倉町は荒川や阿武隈川よりもだいぶ高いところにあるので、僕は水害の心配はないと思っていました。でも道路を歩きながら町内会長さんが「大雨が長く続いたりすると、このマンホールのふたが持ち上がってしまうこともあるんだよ。気を付けて歩くんだよ。」と教えてくださいました。荒川の水位が上がると、マンホールの水が逆流してくるのだそうです。都会ではよくあるそうです。川以外にも気を付けなければならないところがあるんだなと思いました。実際に地域を見てまわってよかったです。自分の住んでいるところなのに、知らないことがいっぱいありました。

(6年 男子児童)



学校の近くの大森川を見る



荒川の堤防について話を聞く



水害の危険のある場所を書き込む



完成したマップの発表をする

### (9) 成果と課題

- 川が増水すると側溝等への逆流を防ぐため水門を閉める。そうすると川に流れない雨水が低い地域に集まり増水するという都市特有の水害の仕組みを児童は具体的に理解することができた。フィールドワークを通して現地で実際に水門を見たり、水が噴出するマンホールを見たりすることにより、児童は実感をもって水害の危険を理解することができた。
- 今回の「防災マップをつくろう」を地域の方々と一緒に実施したことにより、町内会の防災組織の確認や役割分担の再確認につながり、各町内会の防災意識の高揚にもつながったと町内会長さんからお話があった。これからも学校と地域が一体となった防災学習を年間計画に明確に位置付け、推進していきたい。学校は地域の防災の拠点でもあることを改めて痛感した。

## 実践6 教員研修（視察や研修会への参加、校内研修会等）

### （1）〔8月8日（金）〕先進校・先進地視察

- 新潟県三条市「セーフティアドベンチャー（防災キャンプ IN 三条）」を視察する。
- 校長、教務主任が参加する。



防災キャンプの様子を視察する



三条市立第四中学校の様子を視察する

### （2）〔8月22日（金）〕伝達講習

- 校長、教務主任から三条市の取組の様子を伝える。
  - ・地域とNPO法人による防災体制
  - ・防災マップづくりの様子や防災キャンプの具体的内容
  - ・防災学習のカリキュラムの内容と作成の方法

## 5 終わりに

- 「ふくしまの復興の拠点は学校である」と言われる。今年度、地域の協力を得ながら防災学習を推進してみて、「学校は地域の防災の拠点でもある」という思いを強くした。学校の防災教育を充実することは、子どもたちの危機意識を高めるとともに、地域や保護者の防災意識の高揚にもつながることを実感した。今回の取組を通して地域の防災意識を高めることにも貢献できたと思う。
- 今後も学校、家庭、地域が危機意識と責任を共有し、一体となった防災学習を推進していきたい。防災マップや危険箇所ポスター等を地域に配付し、掲示してもらおう等、学校が子どもたちの活動を積極的に発信していきたい。
- 吾妻山の火山活動が活発化している。火砕流や土石流等の災害は河川と密接な関連がある。今後は火山災害も視野に入れた防災学習を推進していきたい。

## 柳津町立西山小・中学校

### 研究テーマ

地域を愛し、地域防災の担い手となる児童生徒の育成を目指す防災教育

### 1 ねらい

災害や防災についての知識を身に付け、地域社会の一員として、進んで地域の安全に貢献できるようにする。

### 2 学校課題

- 小・中学校の裏山が土砂災害警戒区域に指定されている。
- 地域には高齢者が多く、特に昼間は若い働き手がない。
- 土砂災害等により道路が寸断され、地域が孤立する可能性が高い。



中学生が小学校低学年児童の手を引いて避難する

### 3 実践概要

#### (1) 小・中合同避難訓練（西山小・中学校）

〔5月7日（水）〕避難経路、避難時の集合場所を小・中合同で確認

#### (2) 地域ハザードマップ作成（西山小学校PTA）（P.108 資料1参照）

〔5月〕PTAが危険箇所を写真撮影して持ち寄り、ハザードマップを作成

#### (3) **実践1** 授業実践（西山小・中学校）

〔5月～12月〕研究テーマに迫るため、小・中それぞれ防災に関する授業を実施

#### (4) **実践2** 地区児童・生徒会危険箇所確認（西山小・中学校）

〔7月7日（月）〕小・中学生が居住地区ごとに分れ、地図上で危険箇所を確認

#### (5) 釜石方面研修視察（西山中学校職員）（P.109 資料3参照）

〔7月28日（月）〕釜石の奇跡を生んだ釜石市の防災教育を釜石市教育委員会で研修

#### (6) **実践3** 地域、消防団、日本赤十字社との合同防災訓練（西山小・中学校）

〔9月6日（土）〕小・中学生が地域に声をかけ合いながら合同で避難、消防団訓練と合流

#### (7) 防災ハンカチ作成（西山小・中学校）（P.108 資料2参照）

〔12月〕ハザードマップをもとにハンカチを作成、日頃の携帯を推進

#### (8) 冬期避難確認（下校訓練）（西山小・中学校）

〔12月17日（水）〕小・中学生がともに下校し、帰宅完了を学校へ連絡



## 実践 1-2 小学校授業実践

### 1 単元名 「防災について考えよう」（2年学級活動）

#### 2 ねらい

- 土砂災害が発生した場合、どのように自分の身を守るか、どのように避難するか考え、安全な避難行動が取れるようにする。

#### 3 授業の実際

- (1) 防災の意義（未然防止と拡大防止）について知ることで、災害が起きた時に自分ができる行動をより多くイメージできるようにした。
- (2) 広島土砂災害の写真を提示し、本時の学習への意欲を高めた。
- (3) 西山地区にある防災の工夫について知ることで、身近な問題として捉えられるようにした。
- (4) 当日の防災訓練を振り返ることで、災害が起こった時にどのように行動すればよいか考える手がかりとした。



#### 4 成果と課題

- 西山地区の防災の工夫を取り上げたことで、防災を身近な問題として捉えることができた。
- 実際の写真を提示することで、防災の必要性を感じさせることができた。
- 避難訓練等の時間に避難の仕方などを振り返り、適切な行動について更に考えを深めさせたい。

### 1 単元名 「土砂災害から身を守ろう」（3・4年学級活動）

#### 2 ねらい

- 土砂災害が起きた場合、身を守るための方法を考えようとする。

#### 3 授業の実際

- (1) 広島土砂災害（2014.8.20）の写真を提示  
「もし、わたしたちの町に土砂災害が起きたら…」と、問題の意識化を図る。
- (2) 「やないづ町防災マップ」から土砂災害の危険性のある場所探し  
自分たちが暮らす場所も危険箇所該当することを再認識させる。
- (3) 土砂災害の前兆を知る方法や土砂災害から避難する時の心得の話し合い  
「土砂災害から避難する時、どんなことに注意しますか？」に対して、自分の考えをワークシートに書き、交流させる。
  - ・大雨が降ったら、避難をする準備をする。
  - ・テレビや防災無線などから、情報を聞く。
  - ・危険なところには、近づかない。等
- (4) 過去に起きた災害を忘れずに、備えることの大切さの理解



「やないづ防災マップ」を見る児童たち

#### 4 成果と課題

- 児童の防災への意識化を図ることで地域を理解することにつながった。
- 西山地区における自然災害は、大雨による土砂災害以外に大雪によるものも考えられる。今後、地域の特質を生かした学習内容を検討していきたい。

#### 5 児童の感想

- 5時間目の学級活動では、どしゃさいがいが、いつ、どこでおきるかを調べました。学校の近くでもどしゃさいがいがおこりやすいということがわかりました。

## 実践2 地区児童・生徒会危険箇所確認 [小学校・中学校]

### 1 危険箇所マップ作成の目的

小学校低学年の子どもも含め、上級生や中学生の助言を得ながら、住んでいる地域の危険性を改めて認識するとともに、危険を回避できる資質や能力を養う。

### 2 危険箇所マップを作成するにあたって配慮したこと

○内容や活用の機会を工夫する

- (1) 危険箇所マップは、各地区の実情と季節によって変化する環境を踏まえて作成する。
- (2) 危険箇所マップ作成では、子どもたちが互いの情報を共有できるよう配慮する。
- (3) 作成した危険箇所マップは、子どもたちが常に確認できるような場所に掲示しておく。



地域特有の自然災害や事故が起こりやすい場所などは、再度、子どもたちで情報を交換し合った。



小・中学生が同じ地区ごとに別れ、予め作成した地区の地図に危険箇所を記入しながら、確認し合った。



確認後、校内に掲示された「危険箇所マップ」

### 実践3 地域、消防団、日本赤十字社との合同防災訓練 [小学校・中学校]

平成26年9月6日(土)、これまでの防災学習の成果を児童・生徒及び教職員が確認する場として、西山小・中学校、地域、消防団、日本赤十字社合同による防災訓練を実施した。

当日は「ゲリラ豪雨により、学校裏山をはじめ、各地で土砂災害が発生、道路も寸断され、地域が孤立化してしまう。」という設定のもと、次の(1)～(5)に主眼をおいて訓練を行った。

児童・生徒  
教員

- (1) 率先避難者となることのできるようにする
  - ① 地域住民の避難も促進
  - ② 中学生が小学生(低～中学年)を誘導
  - ③ 地域の年配の方の避難補助
- (2) 避難所となった場合の避難所運営の補助ができるようにする
  - ① 炊きだしの補助
  - ② 炊きだし提供等の補助
- (3) 避難所での負傷者の手当ができるようにする
- (4) いざという時の消火要員の一人としての自覚を持つことができるようにする
- (5) 安全が確認された後の保護者へのスムーズな引き渡しができる

#### 当日のタイムスケジュール

- ① 10:30～10:45
  - ・小中校内放送により避難開始
  - ・地域の要配慮者も助けながら地区の公民館へ避難
- ② 10:45～10:50
  - ・人員確認
- ③ 10:50～11:00
  - ・西山小中グラウンドに移動
- ④ 11:00～11:40
  - ・炊きだし講習受講・炊飯
- ⑤ 11:40～12:10
  - ・救急救命法・応急処置等の講習①
- ⑥ 12:10～13:10
  - ・炊きだしによる昼食
  - ・炊きだし提供訓練
- ⑦ 13:10～14:30
  - ・救急救命法・応急処置等の講習②
- ⑧ 14:30～15:00
  - ・消火器による初期消火訓練
  - ・消防団放水訓練見学
- ⑨ 15:00～15:30
  - ・消防防災ヘリによる救助見学
- ⑩ 15:30～15:45
  - ・ヘリ着陸見学
  - ・閉会式
- ⑪ 15:45～
  - ・保護者への児童生徒引き渡し

#### 1 小中・地域合同による避難訓練

小・中学校が隣接する西山小中学校の特色を生かし中学生が小学校低・中学年児童の手を引きながら地区の公民館へ避難誘導した。

また、地域の方数名に要配慮者役としてご協力をいただき、中学生が避難の途中で自宅を訪問して公民館へ誘導する訓練を行った。



中学生が小学生の手を引いて誘導する様子



地域の方の誘導訓練を行う中学生

さらに、地域住民の方々の避難を促すため、「土砂崩れです！避難してください！」と全員で大きな声を上げながら歩いた。



「避難してください！」と声をかけながら避難する様子  
隊形は  
[先頭] 呼びかけの中学生  
[中央] 小学校低・中学年児童とその手を引く中学生  
[後方] 小学校高学年児童とした。

## 2 日本赤十字社による炊きだし・救急救命法講習の実施

日本赤十字社より講師の方をお招きし、炊きだし、救急救命法、応急処置、搬送についての講義を行っていただいた。

災害救助用炊飯袋に1合分の米を入れ、鍋でご飯を炊く実習の様子。当日は地元の赤十字奉仕団の方8名が応援に駆けつけ、スムーズに調理が進んだ。



ご飯と一緒に鍋でレトルトのカレーを温め、避難所さながらに、体育館でカレーライスを食べた。準備の補助をする児童・生徒の動きも手際よいもので、事前学習が生かされていた。



三角巾を使った  
応急処置の実習の様子



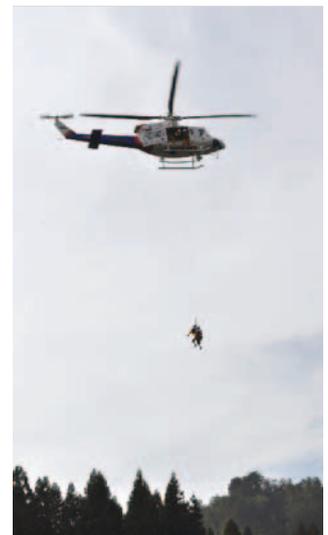
毛布で簡易担架をつくり、搬送する実習の様子

## 3 消防団との合同訓練、防災ヘリ救助・着陸見学

地元消防団の防災訓練と合流し、初期消火訓練を行った。子どもたちも、本物の薬剤の入った消火器で火を消す体験は初めてであり、消火器の有効性を確かめることができた。また、消火栓の準備を見学し、放水を体験した。



消防防災ヘリ「ふくしま号」による訓練展示飛行では、要配慮者役の小・中学校教頭がそれぞれ小学校屋上からロープで救出された。その後、ヘリは校庭に着陸し、隊員が質疑応答にあたった。福島空港から15分で西山まで飛来することができること、夜間の飛行はできないことなどがわかった。



## 4 保護者への引き渡し訓練

訓練終了後、緊急メールリストを用いて保護者に連絡し、児童・生徒の引き渡しを行った。その際、児童・生徒との関係、緊急連絡先、引き渡し時間を記録した。今回の訓練では、職場を一時抜けて迎えに来なければならない保護者もあり、全員の引き渡しに1時間ほど要した。



## 5 資料

### 資料1 地域ハザードマップ作成 [小学校]

各地区PTAより、危険箇所をあげていただき、その情報をもとにその場へ赴き、写真を撮影してマップを作成した。

作成したマップは小・中で共有し、各家庭に配付するとともに、授業等でも活用した。

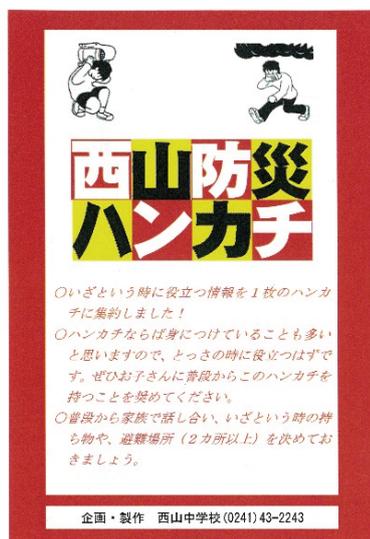
マップには、各地区に居住する小・中の児童・生徒名も掲載されており、有事の際の人員確認がしやすいように工夫した。



### 資料2 防災ハンカチ作成 [小学校・中学校]

上記のハザードマップの情報をもとに、常に携帯できる情報源となるよう、ハンカチを作成した。

ハンカチには、各地区の危険箇所の他に、避難方法等をわかりやすいイラストで示した。また、非常持出品の例なども掲載した。



## 資料3 釜石方面研修視察【中学校】



町長はじめ多くの方々犠牲となった大槌町役場跡

7月27日（日）・28日（月）の両日、岩手県釜石市の教育委員会を訪問した。東日本大震災の折り「津波でんでんこ」を標語に防災訓練を受けていた小・中学生らのうち、当日学校に登校していた生徒全員が生存したことで話題となった「釜石の奇跡」の視察研修である。

子どもたちへの防災教育を推進するにあたり、指導者自身が現場の空気感、危機感を感じ、防災の必要性を伝えていく必要があると考えたためである。本研修では、夏休み

を利用し、出張、日番の職員を除く全職員が参加した。

釜石市の小・中学生らは、地震の直後から教師の指示を待たずに避難を開始。「津波が来るぞ、逃げるぞ」と周囲に知らせながら、保育園児のベビーカーを押し、お年寄りの手を引いて高台に向かって走り続け、全員無事に避難することができた。

とっさの時にこうした行動ができる児童・生徒を育成するために、学校教育ができることは何なのか・・・？こうした問題意識を持つての訪問である。



3年を経た今なおプレハブで営業する商店街



モニュメントに置き換えられた「奇跡の一本松」

防災教育の説明をしてくださった釜石市教育委員会学校教育課長はいう。

「防災教育とはつまるところ人づくりです。海の恵みを楽しむ釜石では、地震・津波を必要以上に恐れるのではなく、津波があつたら率先して逃げるという姿勢を教え続けることが地域を大事にする子どもを育てることにつながり、地元に貢献する人間の育成につながる。防災教育は、生き方指導、人づくりです。」・・・と。

どれだけハードを整備しても、その想定を超える災害は起きうる。最後に頼れるのは、一人一人が持つ社会対応力であり、それは教育によって高めることができる。釜石ですら教員の防災意識の喚起が課題であるという。今回、全職員が参加して実際の被災地に立ち、空気感を共有できたことは大変意義深いものだった。

## 6 研究を通して

本年度は、地域・消防団との合同防災訓練を検証の機会とすることで、校内の防災教育の構想を体系化することができ、より自校の実態に即した指導を行うことができた。また、釜石市での研修等を通し、防災教育は地域の人を守ることにつながる。すなわち、郷土愛を育む活動と両輪の関係にあるということを知り、防災教育とともに、子どもたちが地域の魅力を発掘する取り組みを行ってきた。

そうした背景から、合同防災訓練後の生徒の感想からは「今回は避難経路に沿って、避難するように声をかけたが、もっと多くの地域の人に声をかけられるようにしたい。」という感想がみられた。このことから、本校の目指す「地域防災の担い手」としての役割について児童生徒が理解を深めることができたといえる。今後は、高まった子どもたちの気持ちに応えるためにも、さらに地域防災に係る学校の役割について研究を深めていきたい。

# 防災個人カード配付のねらいと学校における活用

## 防災個人カード配付のねらい

- 1 カード内容について児童生徒が家族と話し合いながら記載することで、日頃からの防災意識を高めることができるようにする。
- 2 作成したカードを携帯することで、いざという時の安否確認、避難、救助救護等の一助とすることができるようにする。

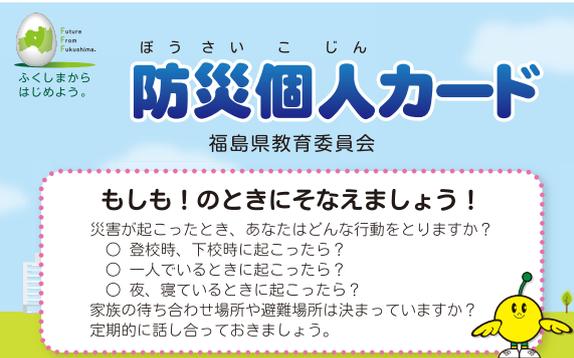
**① 外出時や避難時のポイント★**

災害には、様々なものがあります。あなたの地域では、どんな災害が起こりやすいか話合ってからチェックし、対応を確認しておきましょう。

地震(火災) 風水害(暴風、豪雨、洪水、土石流、がけ崩れ)  
津波災害 雪害 火山災害 原子力災害  
その他( )

外出時(登下校時) あわてて移動を開始せず、安全最優先で無理して帰宅を急がない。  
学校、自宅、民家、避難場所、どこへ行けばよいか落ち着いて考え、行動する。

避難時(自宅から) 避難する前に火元などをチェックする。(ガスの元栓、電気のブレーカー)  
避難先を書いて玄関先に貼る。 近所に声をかける。  
荷物は少なくし、歩いて避難する。(10円玉、メモ用紙、筆記用具も役立ちます)  
ラジオなどから正しい情報を得る。



ぼうさい こじん  
**防災個人カード**  
福島県教育委員会

**もしも！のときにそなえましょう！**

災害が起こったとき、あなたはどんな行動をとりますか？

- 登校時、下校時に起こったら？
- 一人でいるときに起こったら？
- 夜、寝ているときに起こったら？

家族の待ち合わせ場所や避難場所は決まっていますか？定期的に話し合っておきましょう。

**②**

名 前	生 年 月 日
家の住所	家の電話番号
学 校 名	学校の電話番号
家族の待ち合わせ集合場所	家族の避難場所
もしもの場合の家族の約束事	

**③ 災害用伝言ダイヤル**

**【録音 ☎171-1-(自宅の電話番号)】**  
**【再生 ☎171-2-(自宅の電話番号)】**

≪平常時に体験利用をしておきましょう≫

- ・毎月1日・15日、正月三が日… 00:00~24:00
- ・防災週間… 8月31日 9:00~9月5日 17:00
- ・防災とボランティア週間… 1月16日 9:00~1月21日 17:00

※

※家族で話し合ってから必要な電話番号・メールアドレスなどをメモしておきましょう。

## 学校における防災個人カードの効果的な活用(①~③の番号は上記の図の番号と照合)

- ①外出時や避難時のポイントについては、より防災意識を高めるために、家族と話し合う前に学級活動等で指導を行うことが効果的である。【参照：「家族会議の計画を立てよう！」】
- ②災害時の確認事項を話し合う家族会議については、家庭に全て任せるのではなく学校と家庭が連携を図る。【参照：「いざという時の備えは」(P 71 ワークシート)「家族会議をひらこう！」】また、家族会議を開いた後は、学校で家族会議を振り返る場を設定することで、より効果が高まり、学校と家庭との連携も深まる。【参照：「家族会議を振り返ろう！」】
- ③災害伝言ダイヤルについては、各家庭での体験利用を促す。【参照：「災害用伝言ダイヤル(171)の使い方を知ろう」(P 73)】

## 防災個人カードの活用にあたっての留意事項

- 防災個人カードの配付は一人1回限りで、個人情報も記載されていることから、カードの保管、紛失については特に留意する。
- 防災個人カードの活用にあたっては、学校だより等で紹介するなど工夫する。
- 防災個人カードや学校における活用例のワークシートは、福島県教育委員会のWebページからダウンロードし、各学校の実態に応じて活用を図る。
- 各学校において、防災学習や学級活動等の時間に防災個人カードに関する指導を行う場合は、兄弟姉妹関係を考慮して同じ日に実施することが望ましい。

# 防災個人カードの学校における活用例

## 学校で

防災個人カードの活用 「家族会議の計画を立てよう」 ワークシート

### 家族会議の計画を立てよう！

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

◇ あなたが住む地域では、どのような災害が起こりやすいですか。下の中であてはまるものをチェックし、地域において最も心配な災害をグループで話し合います。

地震（火災） 風水害（暴風、豪雨、洪水、土石流、がけ崩れなど）  
津波災害 雪害 火山災害 原子力災害 その他 \_\_\_\_\_  
 最も心配な災害は（ \_\_\_\_\_ ）

◇ 外出時（登下校時）に災害が起こった場合、どうすればよいでしょうか。グループで話し合います。

\_\_\_\_\_

◇ 避難時（自宅から）に災害が起こった場合、どうすればよいでしょうか。グループで話し合います。

\_\_\_\_\_

◇ 家族会議の計画を立てましょう。  
 災害が起きた時に大切なことは？ \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

☆ い つ ( ) 月 ( ) 日 ( ) 時から  
 ☆ 場 所 ( ) \_\_\_\_\_  
 ☆ メンバー ( ) \_\_\_\_\_

☆ 家族会議で話し合うことを考えましょう。

\_\_\_\_\_

## 家庭で

防災個人カードの活用 「家族会議をひらこう」 ワークシート

### 家族会議をひらこう！

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

※ 家族会議の司会はあなたです！話し合いをうまくリードしましょう！

◇ 自分が住む地域で起こりやすい災害について、学校で話し合ったことを家族の方に説明し、家族の方に詳しく聞いてみましょう。

\_\_\_\_\_

◇ 外出時（登下校時）と避難時（自宅から）に災害が起こった場合どうすればよいかわかり、学校で話し合ったことを家族の方に説明し、家族の方の考えも聞いてみましょう。

外出時（登下校時）に災害が起こった場合  
 \_\_\_\_\_

避難時（自宅から）に災害が起こった場合  
 \_\_\_\_\_

◇ 自分一人で避難しなければならなくなったときのために、次のことを家族の方と話し合い、確認しましょう。

☆ 自分の避難場所は？ \_\_\_\_\_

☆ 家族の避難場所は？ \_\_\_\_\_

☆ 家族との待ち合わせ場所は？ \_\_\_\_\_

☆ 家族と連絡を取り合う方法は？ \_\_\_\_\_

☆ もしもの場合の家族との約束事は？ \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

※ いつも家族で話し合っておくことが大事！命を守るにつながります！

防災個人カードを活用して防災意識をより高めるために、  
 学校と家庭が連携して取り組みましょう！

## 家庭 ↔ 学校で

防災個人カードの活用した 「家族会議を振り返ろう」 ワークシート

### 家族会議を振り返ろう！

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

◇ 家族会議を振り返ってみましょう。（4 十分できた 3 ややできた 2 あまりできなかった 1 まったくできなかった の中から、あてはまる番号を選びましょう。）

☆ 家族会議を開き、防災について家族の方と話し合うことができましたか。	4 - 3 - 2 - 1
☆ 自分の住む地域で起こりやすい災害を確認することができましたか。	4 - 3 - 2 - 1
☆ 外出時（登下校時）に災害が起こった場合、どうすればよいかわかり話し合うことができましたか。	4 - 3 - 2 - 1
☆ 避難時（自宅から）に災害が起こった場合、どうすればよいかわかり話し合うことができましたか。	4 - 3 - 2 - 1
☆ 防災個人カードをもとに、避難するために必要な家族の約束などを話し合うことができましたか。	4 - 3 - 2 - 1
☆ 家族会議を開いて、感じたことや考えたことを書きましよう。	

◇ お家の方にも振り返っていただきます。

☆ 自分が住む地域で心配な災害を、家族で話し合うことができましたか。	4 - 3 - 2 - 1
☆ 外出時（登下校時）に災害が起こった場合、お子さんの行動を話し合うことができましたか。	4 - 3 - 2 - 1
☆ 避難時（自宅から）に災害が起こった場合、お子さんの行動を話し合うことができましたか。	4 - 3 - 2 - 1
☆ もしもの場合に、必要な家族の約束を確認することができましたか。	4 - 3 - 2 - 1
☆ コメントをお書きください。	

◇ 先生から \_\_\_\_\_

## 展開例

- 1 自分が住む地域で起こりやすい災害や最も心配な災害について知る。
- 2 最も心配な災害が起こった場合、どうすればよいかグループで確かめ合う。
  - ・外出時（登下校時）だったら？
  - ・避難時（自宅から）だったら？
- 3 防災について話し合う家族会議の計画を立てる。
  - ・災害が起きたときに、大切にしなければならないことを確認する。
  - ・家族会議の日時、場所、メンバー、話し合う内容などを決める。

## 展開例

- 1 ワークシート「家族会議を振り返ろう！」に書いてある家族の方のコメントを発表する。
- 2 家族の方が記入した反省を見ながら、家族会議を振り返り自己評価を行う。
- 3 家族会議を開いて、感じたことや考えたことを発表する。
- 4 防災個人カードの「もしも!のときにそなえましょう!」を再度確かめ合う。
  - ・災害が起きたときに、どのような行動をとればよいか？
  - ・家族との待ち合わせ場所や避難場所は？

## 5 防災教育と放射線教育・道徳教育との関連

### 放射線教育

#### 放射線に関する基礎知識

- 放射線、放射性物質の存在を知る。
- 放射線と放射能、放射性物質の違いを知る。
- 身の回りや自然界の放射線を知る。
- 放射線の透過性について知る。
- 放射線の単位、測り方を知る。
- 放射線の種類、性質を知る。
- 放射線の利用について知る。
- 除染の意味を知る。
- 放射能の半減期と放射線量の関係を知る。

#### 放射線から身を守る実践力

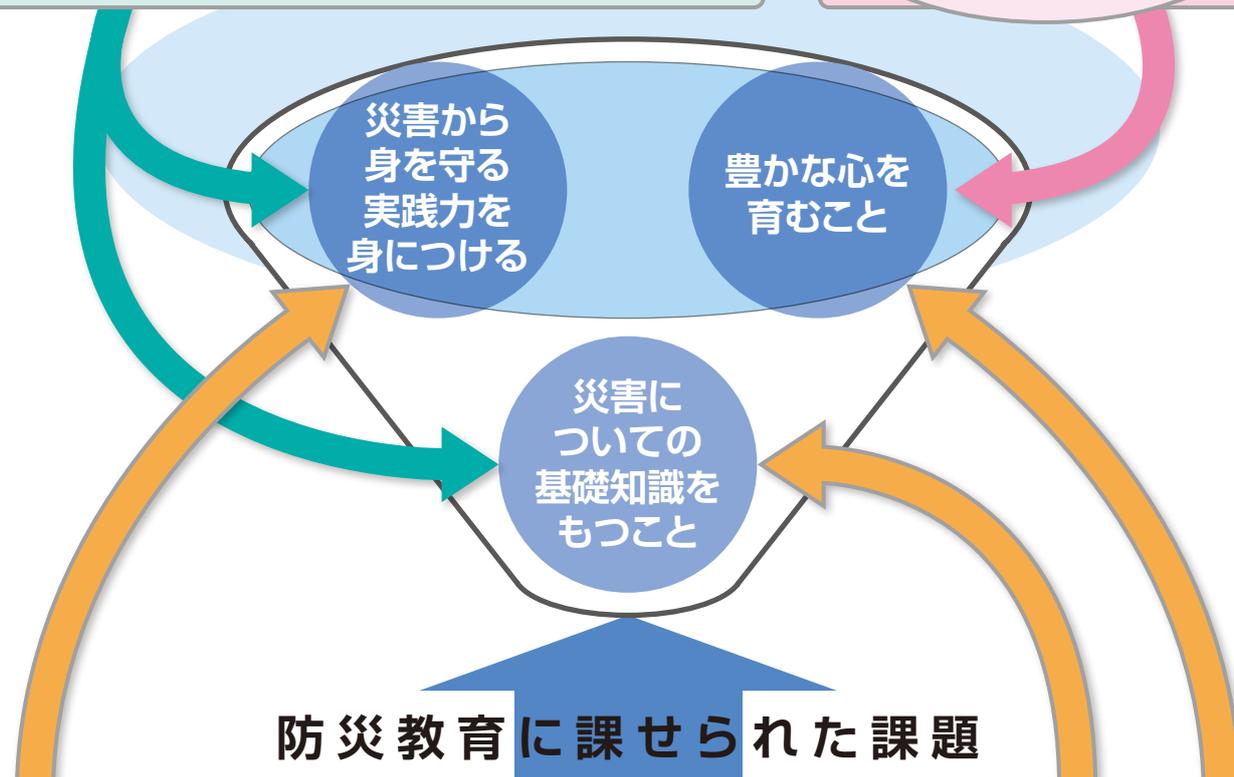
- 放射性物質が一度に大量に放出された場合の避難の仕方を知る。
- 外部被ばくや内部被ばくをしないための生活の仕方を知る。
- 放射線の人体に対する影響について知る。
- 情報の収集の仕方を知る。
- 外部被ばくと内部被ばくの影響について知る。
- 食物と放射線量の関係を知る。
- 心のケアの仕方を知る。

### 道徳教育

- だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場になって親切にする。
- 日々の生活が人々の支え合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。
- 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の命を尊重する。
- 自然など人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
- 身近な集団に進んで参加、協力し、自己の役割を自覚し責任を果たす。

### 道徳的価値

思いやり、親切  
信頼、友情、助け合い  
尊敬、感謝、生命尊重、敬虔、  
奉仕、家族愛、愛校心、郷土愛



### 防災教育

#### 学校における防災教育のねらい

- ① 自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。(知識、思考・判断)
- ② 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。(危険予測、主体的な行動)
- ③ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる。(社会貢献、支援者の基盤)